

第12回日韓合同「農作業安全シンポジウム」の印象記

富山県農村医学研究所，富山協立病院 寺 西 秀 豊

第12回日韓合同「農作業安全シンポジウム」が2023年10月21日、盛岡で開催された。本シンポジウムは、日本農村医学会と韓国の農村振興庁の間でこれまでも継続的に開催されてきた。今回は表1に示すように第12回目のシンポジウムということである。この間、新型コロナ流行で開催が延期されていたが、3年ぶりの対面によるシン

ポジウムということであった。今回は第72回日本農村医学会学術総会が秋田で開催され、引き続き盛岡で本シンポジウムが行われ、私も参加させて頂いた。

開会の挨拶が立身政信氏によって行われた。座長は埜田和史氏で行われた。まず韓国側から報告が行われた。韓国の農村は、不均等な経済発達、

表1. 第12回日韓合同「農作業安全シンポジウム」のプログラム

時刻	内 容	演者・タイトル等
9:00~9:20	開会挨拶	日本：立身政信・(公財)若手県予防医学協会 産業保健支援部長 韓国：金 京蘭・農村振興庁農業者安全課課長
9:20~9:40	経過報告	立身政信
9:40~12:00	日韓発表・討論	座長：埜田和史（びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部 教授）
(9:40~11:00)	韓国側から発表	①崔棟弼・農村支援局 農業者安全チーム（農業研究士） 韓国の農作業災害及び安全推進現況 ②劉智賢（代表発表）・農村支援局 農業者安全チーム（劉智賢、金壬京、金京蘭） 農作業安全政策及び推進事業現況
	日本側から発表	①伊澤 敏・日本農村医学会副理事長 第22回国際農村医学会学術総会（セルビア学会）報告 「農作業安全における教育の重要性」 ②大浦栄次・富山県農村医学研究所主任研究員 農作業事故調査により明らかになった課題
(11:00~12:00)	討 論	課題：①韓国の法制度の実効性と課題 ②農業労災制度の現状と課題 ③日本の問題解決への課題と対策
12:00~	閉会挨拶	伊澤 敏・日本農村医学会副理事長／佐久総合病院臨床顧問
12:05~		(昼食後解散)

人口、資本、社会文化、福祉などの都市集中によって、農村の人口減少、高齢化に苦しんでいる。人口の91%が都市に集中しているということである。それに伴って医療、教育、交通などの生活基盤も都市に集中している。農村部では人口減少、高齢化が進んでおり、収入の格差も深刻であるという。そうした現状に対して、韓国では、さまざまな対策が講じられている。

今回の発表では、詳細な統計的な農業、農村の現状分析がなされていた。韓国では農業、農村に対する温かい目が注がれているのを感じた。農業者安全災害統計調査に関しても、農村振興庁が全国1万2千戸の農家を訪問して前年度の発生状況を調査しているとの報告があり驚かされた。その結果、農業労働者の災害は一般労働者の約1.4倍高いことや、農業労働者の死亡数は一般労働者より約1.3倍高いとことが明らかになったという。農業分野での労災保険も充実してきており小規模農家の加入する農業者安全保険にも力が入っている。農業者安全保険は保険制度ではあるが、国が財源の50%を支出しているとのことであった。

農業者の災害の現状としては、60代、70代などの高齢者に多発することが示された。災害別に見ると転倒、墜落やトラクターの道路交通事故が重要という。農業災害に対する様々な対応が考えられていて、農村振興庁が対策を後押しし、実効性のある対策となっている。それら施策が全体と

して「農漁業者の暮らしの質の向上及び農漁村地域の開発促進に関する特別法」等の法律によって、法的にも整備されているという。韓国の農村に対する積極的な姿勢に驚くとともに、励まされるものを感じた。

日本からの報告は日本農村医学会副理事長の伊澤敏先生と富山県農村医学研究所の大浦栄次さんの報告であった。大浦さんの報告は、農作業事故調査により明らかになった課題というものであった。大浦さんが長年手がけてきた個別事例調査、ケーススタディ等の報告がなされた。報告は具体的で説得力のあるものであった。特に、耕耘機による事故などは富山とともに他の地域にも全く同じ事故が見られ、農作業事故は全国的に共通な普遍的なものであることがよくわかった。農作業安全のための手順に関する解説や教育資料が日本農村医学会や農水省から出されてきており、今後も期待できるという印象であった。

討論として、今後の農作業安全性の推進のための課題等の論議がなされた。参加者の中には岩手大学農学部の農業専門家もおられ、様々な角度から、大変有意義な討論が行われた（写真1）。今後もこうした国際的な学術集会在多くの地域で行われ、農村の健康問題や農作業に対する安全を検討し、関係者の共通意識を深めることは大変有意義なことと考えられる。本シンポジウムの今後の発展を期待したい。



写真1. 第12回日韓合同「農作業安全シンポジウム」の参加者